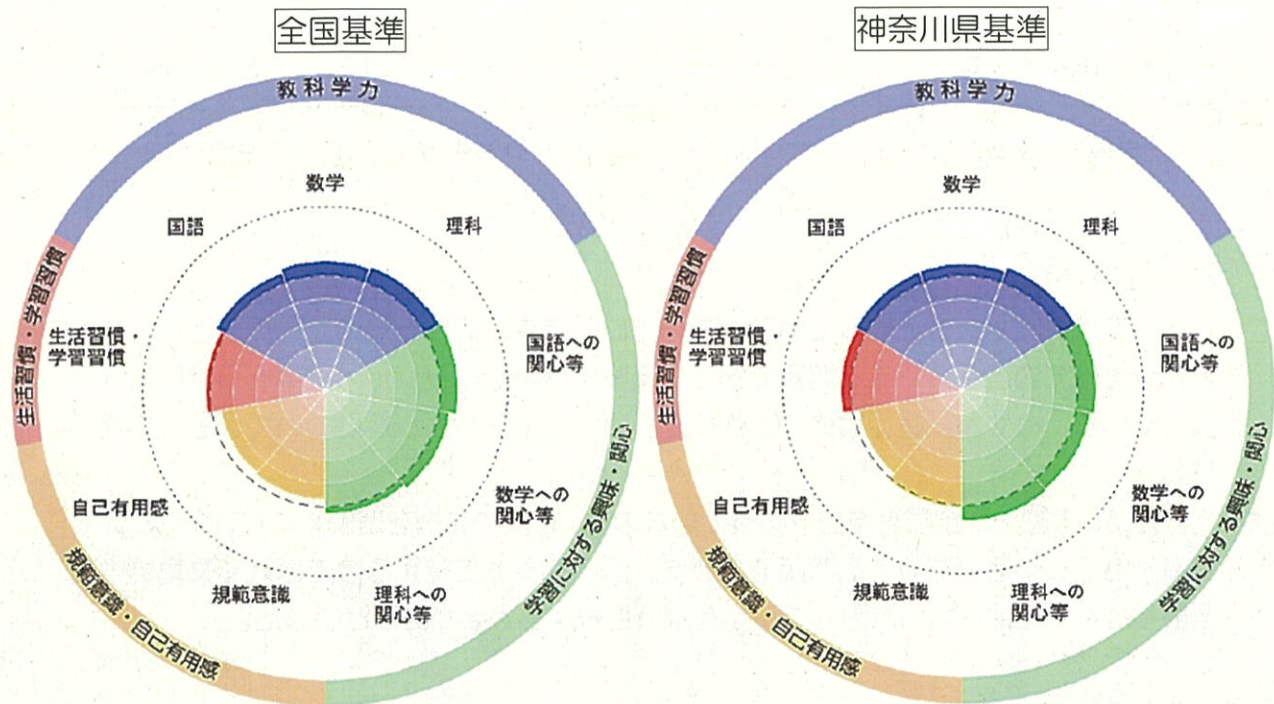


令和4年度 全国学力・学習状況調査 本校結果分析



境木中学校の3年生の教科学力および学習に対する興味・関心については、全国および神奈川県の平均を上回っている。しかし、質問紙による自己有用感に関する設問では、全国および神奈川県基準と比べて、少し低い傾向が見られた。具体的には、

「自分には良いところがありますか」

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

「将来の夢や目標を持っていますか」

といった設問に対する回答結果である。入学時から、新型コロナ感染拡大による分散登校や行事の相次ぐ中止・変更、部活動の制限など、自分自身の有用感や集団への帰属意識を育てる機会に恵まれなかった影響があるのではないだろうか。

また、

「人が困っているときは、進んで助けていますか」

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

といった規範意識に関する設問についても、神奈川県基準では平均的な結果であるが、全国基準と比べて低い傾向が見られた。仲間づくりや人権教育を進めることで、思いやりや他者をも大切にする心を育てたい。

教科別平均正答率

	国 語	数 学	理 科
横浜市立境木中学校	72 %	56 %	54 %
神奈川県（公立）	69 %	53 %	50 %
全国（公立）	69.0%	51.4%	49.3%

国 語

正答率が全国平均を上回っている中で、特に得点率が高かったのは、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する問題である。授業で様々なジャンルの文章を分け隔てなく読んでいることや、読書習慣のある生徒が多いことで読解力が身につけていると考えられる。

一方で、正答率が全国平均を下回っていたのは、行書の特徴を理解したり、文脈に即して漢字を正しく書いたりする問題であった。漢字を単体で覚えるのではなく文章の中で理解したり、行書を含めた書写に時間を割いたりする必要があると感じた。

数 学

数と式、関数については、正答率が全国平均よりも5ポイント以上高く、得意とする生徒が多くいるようである。

一方、図形やデータの活用については、全国平均とそれほど差がない。特に図形については正答率が50%を下回っているため、理解を深められる学習をさせていきたい。

単元ごとにみると、1年次の「データの分析と活用」や2年次の「合同な図形」で、事柄が成り立つ理由を説明することを苦手とする生徒が多いようである。数学においても言語活動を重視した授業づくりをすることで、より深い学びが得られるようにしたい。

理 科

ほぼすべての単元で本校の正答率が全国平均を上回っている。しかし「状態変化による温度変化」についての問題に限っては、平均を大きく下回った。

知識のみでなく、身近な現象と結びつけるような授業を展開することが求められる。例えば「汗をかいたままにしておく」と体を冷やすなど、様々な日常の科学に触れさせることに加え、「打ち水」などの文化を伝えていくことも大切だと考えた。